

カフジ・ビエガ国立公園における類人猿の保護活動と環境教育

(2011年11月～2012年1月)

ポレポレ基金 (ポポフ)

11月28日に行われた大統領選挙によって、コンゴ民主共和国各地でトラブルが相次ぎました。死者や負傷者が出たところもありましたが、幸いポポフが活動しているカフジ・ビエガ国立公園では平静な情勢が保たれており、保護や教育活動は順調に進んでいます。前回のレポートでポポフの活動が、1) ゴリラをはじめとする野生動物のモニタリング、2) 苗木センターの運営、3) 環境教育、4) アートセンターの運営であることを紹介しました。今回のレポートでは、1)と2)を詳しく報告しましょう。

現在カフジで人に馴らしているゴリラの集団は6群あり、すべての個体に名前が付けられています。1群はガニヤムルメ集団といって1991年から研究用に人付けされ、コンゴ中央科学研究所のカニューニ・バサボセ博士が中心となって毎日追跡し、移動ルートを地図上に書き込むとともに、観察記録をつけています。現在背中が白いシルバーバックが1頭とおとなメスが8頭、子どもゴリラが5頭います。ガニヤムルメの行動域にはチンパンジーの1集団が暮らしていて、カボコ集団と名付けられています。おとなのチンパンジーには名前が付けられていて、子どもと合わせて約20頭の個体がいることがわかっています。さて、これまでゴリラとチンパンジーは全く違う食物を好み、暮らし方も違うと思われてきましたが、私たちの調査で実はよく似ていることがわかってきました。ゴリラもチンパンジーも同じように熟したフルーツが大好きで、同じ木を採食にも寝場所にも用いているのです。彼らがけんかもせず仲良く暮らしているのは、フルーツが少ない時期に食べ物や食べ方を変えているからなのです。今回これらの発見を論文にまと



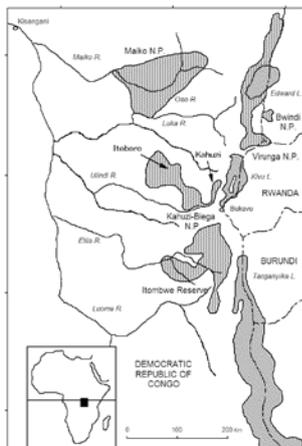
ガニヤムルメ



チマヌーカ集団の子どもゴリラ

め、Springer社から出版されたLong-term Field Studies of Primates (2012) という本の1章に掲載することができました。

また、観光用に人付けされているゴリラの集団は5つあり、なかでもチマヌーカ集団は34頭からなる大集団です。2003年以来、4組の双子が生まれていて、そのうち3組が立派に育っています。ポポフでは、ここ数年来「シルバーバック・キングダム」というゴリラツアーを企画しています。これらのゴリラ集団に暮らすそれぞれのゴリラの名前を覚え、ゴリラたちの行動を解説するのがガイドの役目です。ポポフ代表のジョン・カヘークワはこの公園で長年ガイド長を務め、すべてのゴリラの顔を知っています。11月から公園長に依頼されて、国立公園のガイドたちに個体識別とゴリラの行動観察の方法を教えています。最近、6番目のゴリラ集団が人付けされ、シブララ(平和を求める人)と名付けられました。平和が早く来てほしいという人々の希望



カフジ・ビエガ国立公園
(ポポフはKahuziと書いてある地域で活動しています)

が託されています。

カフジ・ビエガ国立公園でモニターされているゴリラ集団の現在の構成

集団名	シルバー バック	ブラック バック	オトナメス	ワカモノ	コドモ	アカンボ ウ	合計
	13歳以上	8-12歳	8歳以上	6-8歳	3-6歳	0-3歳	
ムガルカ	1						1
チマヌーカ	1		17		3	11	32
ピリンドウワ	1		3		3	1	8
ムファンザーラ			8	4	1	5	18
ランガ	1		5		1		7
ムプングウェ	1		6				7
ガニヤムルメ	1		8		2	2	13
マンコト		1	12	1		2	16
無名	1	1	10			3	15
合計	7	2	69	5	10	24	117

ポポフが経営しているアンガ学校のそばには、生徒たちが耕している畑があります。ここで自分たちが必要とする野菜を作

るとともに、苗木を育てて定期的に近隣の村に配っています。

昔は緑の森が広がっていた公園周辺も、度重なる内戦と焼畑耕作によってすっかり丸裸になってしまいました。住民たちは未だに燃料を薪や炭に頼っているので、村に木がなくなれば公園の保護区に侵入して伐採せざるを得なくなります。ゴリラのすみかが荒らされ、食物や寝場所が不足し、排せつ物から人間の病気に感染する危険が増加します。

それを防ぐために、植樹をして、薪や建材を村で賄えるようにしようというのです。ポポフの植樹活動はすでに20年近い歴史があり、今では遠くの村からも苗木をもらいに人々がやって来るようになりました。ポポフは村々に植樹され成長した木々をまた建材や燃料として買取り、それを流通させる活動もしています。

こうした活動に携わる生徒たちは、将来農林業をやりたいと希望するようになりました。とてもまじめで成績もよく、コンゴ民主共和国の中学校のなかで3番目にいい成績を誇っています。保護の理念を持って人と自然との共存を図る活動に関わり、ぜひ指導者として活躍してほしいと思っています。

ポレポレ基金日本支部 山極壽一



苗木を分ける



絵本を読む



アンガ小学校



アンガ中学校



ポポフの畑